

# 第6学年 国語科学習指導案 (オンライン)

令和3年10月28日(木) 9:10~9:55

授業者 山野 陽子

児童数 13名(4名)

1 単元名 『鳥獣戯画』を読む (情報) 調べた情報の使い方 日本文化を発信しよう

2 単元の目標

- ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思 B(1)イ)
- ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思 B(1)エ)
- ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思 C(1)ウ)
- 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知(3)オ)

3 単元の評価規準

知識技能	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。 (3)オ
思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</li> <li>・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)</li> <li>・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって、パンフレットを作ろうとしている。

4 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、『鳥獣戯画』を読むの表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ表現の工夫を活用して、学校図書館等を利用して調べたことを書く複合単元である。教科書で扱っているのは『鳥獣人物戯画』であるが、教会(フィリピン国民9割がキリスト教徒である)等で展示されている宗教画を聖書に示されている時系列で提示し、宗教画には「神の教えを広める」役割があり、絵を順に「読む」ことで多くの人にその教えを広めることができるという共通点を捉えることができる。

本単元における表現の工夫とは、絵の示し方や論の展開、文末表現などである。筆者による絵の描写や描きぶりについての説明と感想が書かれており、絵と文章の関係を押さえることで、絵の見方や考え方を読み取ることができる。また、本やインターネットを活用して日本文化について調べ、よさが伝わるように表現を工夫しながらパンフレットにまとめることができる。日本で生活していた際の身近な事物を「日本文化」としてその特色を認識するには、歴史的に受け継がれてきた時間軸と、世界の中の日本という空間軸が必要である。『鳥獣戯画』を読むは、その双方を得られる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、昨年度から続いているオンライン授業の成果として、Googleslide を活用して調べたことをまとめ、プレゼンテーションする力が身についてきた。1学期はインターネットに書かれてくる情報をそのまま引用することが多く、難語句の読みや内容を理解しないまま

発表することが多かった。しかし「やさしい言葉で書く」を合言葉に、みんなが見ただけで内容が一目で分かる工夫をすることの大切さを学んでからは、難語句に読み仮名や意味を書き加えたり、時系列で箇条書きにしたり、絵や図、年表やグラフなどを資料として効果的に活用したりと工夫ができるようになってきた。さらに、調べたことから自分の心を動かされたところや、仲間の発表から学んだことなど、自分の考えを深めたり広めたりすることができつつある。しかし、グループでの調べ活動やプレゼンテーション活動になると、仲間の考えに流されてしまい、アイディアをもっているにもかかわらず自分のしたいことや工夫を提案することをためらう傾向がある。

現在、4名の国際結婚家庭のうち、日本語学級に在籍している児童は3名いる。

	日本語学級での様子	在籍学級での様子
A 児 (男) 父日本 母フィリピン	読むこと書くこと話すことにおいて理解できる。 前の世代で使われていた言葉の理解が難しく、国語辞典やインターネット等を使って調べながら学習をしている。 一度学習したことは定着している。	一人で取り組む課題については、内容を把握し、素早く取り組むことができる。図や表を活用して工夫したまとめ方もできる。 グループ活動においては、自分の考えをもっているにもかかわらず、進んで話すことが難しく、仲間に促されて話すことが多い。
B 児 (男) 父日本 母中国	吃音があり、話したいことや伝えたいことをうまく伝えられないことがあるが、日本語学級ではリラックスして発言できる。 自分で読んで理解することが難しいため、①聞く②自分で読む③課題に取り組む ようにしている。	集中しているときは、課題の取り組みが早く、分からないことは進んで質問する。 授業中、自分の気持ちを押し返さることができず、パソコンで検索したり音楽を聴いたりすることがある。目線や動きが違うときは、ブレイクアウトルームで個別学習をすることがある。 集中が持続するように、チャットでがんばっていることや大切なポイント等を伝えている。
C 児 (男) 父日本 母フィリピン	9月転入。4月末から学校に通っておらず、1学期の学習ができていない。日本語学級では予習を中心におこなっているが、1学期の内容は、週1回のサポートルームで学習している。 読むこと書くことが難しく、新出漢字の読みが定着しない。教科書に読みを書き込み、①聞く②自分で読む③課題に取り組む ようにしている。	簡単な内容のときは、集中して活動する。 難しい内容になるとあきらめたり笑ってごまかしたりしてしまうことが多い。ブレイクアウトルームで個別指導をすることがある。 日本語学級で先行学習したことは、生き生きと取り組む。 集中が持続するように、チャットでがんばっていることや大切なポイント等を伝えている。
D 児 (女) 父日本 母フィリピン	入級なし (中学年まで入級)	読むこと書くこと話すこと等、学習に必要な日本語の力がついている。 週1回のサポートルームに意欲的に参加し、「日本語学級みたいでなつかしい」と言って楽しく活動している。

※サポートルームでは、週1回放課後1時間、希望者による補習を行っている。

国語・算数の復習を中心としているが、発展問題や学習クイズ、学習ゲームを行うこともある。

### (3) 指導観

指導に当たっては、「読む・調べる・書く」という複合的な単元全体の見通しをもつ。発信は、比日友好協会 **ABONG** とのオンライン交流会で日本文化のよさを知ってもらうための**プレゼンテーションをする場を設定し、相手意識をもたせる。**単元前半の「読む」では「書くために読む」という目的意識をもたせ、絵と絵巻物の着目点や評価を比べた、論の展開、表現の工

夫、絵の示し方の工夫について読み取る。筆者がどのような観点で作品を見て、よさを伝えるためにどのような表現の工夫をしているかに着目させたい。

単元後半の「書く」では、グループごとに「日本文化」について取り上げ、パンフレットの形に書きまとめる活動を行う。テーマを決定し、そのどこをどう評価し、その魅力をどう表現するかといったことを追及するような話し合いを大切にしたい。個々で分担したものを集めたパンフレットにならないように、これまで学んだ「話すこと・聞くこと・話し合うこと」をいかしてよりよい学び合いをめざしたい。

※ オンライン授業のため、**Googleslide** を PDF にしたものをパンフレットとする。

本単元で日本語のパンフレットを作成した後、総合的な学習の時間を使って英訳して、交流会では英語でのプレゼンテーションを行う。日本語学級の児童は、英語でのプレゼンテーションで活躍することが予想される。

#### (4) 日本語支援について

日本語学級では、『鳥獣戯画』を読む、調べた情報の使い方、日本文化を発信しようについて予備知識を得るため先行学習を行う。日本語の比較表現や自分の考えが授業の中でスムーズに発言できるよう、モデル文をチャットで送り、活用しながら支援を行う。

〈例〉

ア「絵の(○)に着目(を評価)しているけれど、絵巻物では(△)に着目(を評価)しています。」

イ「(□)という文章から、読み手にとって(○○)を感じ取ることができるように、論の展開(表現の工夫、絵の示し方の工夫)がされています。」

ウ「(△△)は、日本文化を発信するのに適しています。理由は(□□)だからです。」

エ「(●)のよさも分かるけれど、(▲)も良いと思います。理由は(■)だからです。」

オ「(●●)の部分は、『鳥獣戯画を読む』の(▲▲)という表現の工夫を取り入れています。」

「学校教育における JSL カリキュラム」を活用し、どのタイプの日本語支援を行うのか明確にして支援をする。

支援	支援の視点	支援タイプ
直接	日本語や学習内容の理解を促す支援	理解支援
	表現内容の構成や日本語での表現を促す支援	表現支援
	語彙や表現の記憶を促す支援	記憶支援
間接	自分で学習する力を高める支援	自立支援
	学習への動機付けなど、情意的側面での支援	情意支援

(「学校教育における JSL カリキュラム II 日本語支援の考え方とその方法」より)

5 単元の指導・評価計画（総時数 1 1 時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点 (○教科・◎日本語支援)	●評価 (手段)【観点】	日本語学級の指導内容 【理】【表】【記】 【自】【情】
1	1	①『鳥獣戯画』を読むの表現の工夫をいかして、日本文化について調べて分かったことを書きまとめる学習の見直しをもつ。	①宗教画と絵巻物の共通点について考え、教材文の題名から絵を「読む」とはどういうことを考えさせたり、単元後半にパンフレットを作ることを提案したりして課題意識をもたせる。 ◎『鳥獣戯画』のレプリカ（絵巻）を提示し、実際の絵巻物を見ることで、時が右から左へと流れていることを理解させ、ストーリーを「読む」ことの意味をとらえる。	【態】「鳥獣戯画」について関心をもち、学習の見直しをもって日本文化を発信する学習に取り組もうとしている。（観察・記述）	【記】『鳥獣戯画』について知り、教材文に書いてある言葉の意味を写真や絵を用いて大まかに理解する。  【情】「利用案内を読もう」でパンフレットの読み方を学習したことを想起させ、この学習のゴールであるパンフレット作りに意欲をもたせる。
2	2 ～ 4	②絵と文章を照らし合わせながら、筆者が『鳥獣戯画』をどう読んでいるかを明らかにする。  ③筆者の「絵についての評価」と「絵巻物についての評価」を読み取る。  ④筆者の伝えたいことを捉え、「論の展開」「文末表現の工夫」「絵の示し方の工夫」について気づいたことを書き出す。	②筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目しているか、本文に線を引かせるなどして読み取らせる。 ◎（４）アのモデル文を活用して話し合う。  ③「絵」と「絵巻物」に対する評価が分かる叙述に、別々の色を使って線を引かせて、視覚的に捉えられるようにする。 ④ p 150 下段①を参考に、表現の工夫や効果を捉えさせる。 ◎意味調べしたノートを机上に置き、言葉の意味を確認しながら読み取るようにする。 ◎（４）イのモデル文を活用して話し合う。	【知】読書に親しみ、読書によってももの見方や考え方を広げられることに気づいている。（観察・記述） 【思 C】目的に応じて、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方や表現の工夫、論の進め方との関りを捉えている。（発言・記述）  【思 C】文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけている。（発言・記述）	【理】絵の中で、筆者が取り上げた部分を○で囲み、文章と対応して考える。 【理】「絵」と「絵巻物」の違いをレプリカを見て理解する 【記】文末表現に線を引き、声に出して読んで工夫を知る。
	5 ・ 6	⑤「調べた情報の使い方」を読み、著作権への理解を深める。 ⑥学校図書館や家庭などで、日本文化についての本やホームページを探し、表現の工夫に着目して読む。 ⑦本やインターネットで見つけた表現の工夫について、グル	⑤引用や出典などの既習事項は、簡単に確認する程度とする。  ⑥事前に学校図書館で借りたりインターネットで調べたりして効率的に学習を進められるように配慮する。 ◎日本文化の例を <b>Googleslide</b> で紹介する。 ⑦『鳥獣戯画』を読むで学習した筆者の工夫と関連づけて考えられるように	【態】文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み、学習の見直しをもって複数の本を選んで読もうとしている。（観察・記述）	【情】過去6年生が作ったパンフレットや <b>Googleslide</b> 、日本文化を紹介したインターネットパンフレット等から完成形を知り、意欲をもたせる。 【自】インターネット

		ープで話し合う。	する。		で調べるときには、やさしい言葉で書かれているものを選ぶ。
第3次	7 本時  8 ～ 10	<p>⑧グループで発信する日本文化を決め、パンフレット作りの構想を練る。</p> <p>⑨必要に応じて詳しく調べる。</p> <p>⑩パンフレットの構成を決め、役割分担をする。</p> <p>⑪割付を決め、下書きを書く。</p> <p>⑫パンフレットを完成させる。</p>	<p>⑧前時に読んだ本や資料の中からテーマを選ぶようにする。</p> <p>◎（4）ウ、エのモデル文を活用して話し合う。</p> <p>◎「構想を練る」とは、パンフレットをどのような内容にするかを考えることであることを伝え、これまでの学習活動の足跡を板書で想起させる。</p> <p>⑨テーマについてさらに詳しく調べることができるように時間を確保する。</p> <p>⑩これまでの経験やp154下段の札を参考にして考えさせる。</p> <p>⑪下書きの段階で、小見出しや表現の工夫を考えさせ、グループで読み合っによりよくさせる。</p> <p>⑫まとめる際に、出典が明示されているかを確認させる。</p>	<p>【思B】伝えたいことを明確にして、テーマを決め構想を練ることができる。（観察・記述）</p> <p>【思B】伝えたいことを明確にし、効果的に伝わるよう、紙面構成を考え、文章全体の筋道を整えている。（記述）</p> <p>【思B】引用したり、絵や写真などと文章との組み合わせを考えたりして、伝えたいことが伝わる書き表し方を工夫している。（記述）</p> <p>【態】日本文化に興味をもち、構成や表現を工夫して書き表すことに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。（観察・記述）</p>	<p>【表】モデル文を活用した、文章づくりをする。</p> <p>【記】学習活動の足跡を振り返り、自分の考えをもつ。</p> <p>【表】読み手が「読みたい」と思うように、『鳥獣戯画』を読む学んだ工夫をいかす。</p>
第4次	11	⑬それぞれのパンフレットに対する感想を伝え合い、単元の振り返りを書く。	<p>⑬感想を伝え合う際には「たいせついかそう」と関連づけてまとめる。「ふりかえろう」では、「読むこと」の観点もあることに注意する。</p> <p>◎（4）オのモデル文を活用して伝え合う。</p>	<p>【態】学習を振り返り、これから日本文化に関わる本を読んだり、絵や写真などを用いた文章を書いたりするときにかかしている。（発言・記述）</p>	

5 本時の学習 (7/11)

(1) 本時の目標

伝えたいことを明確にして、グループで日本文化を発信するパンフレットのテーマを決め、構想を練ることができる。

	本時の目標
A 児 (男) 父日本 母フィリピン	<p>&lt;テーマを決める話し合い&gt; ノートに書いたことをもとに、自分で調べた日本文化について、その魅力やよさを発言することができる。 語尾に「です」「ます」をつける。</p> <p>&lt;構想についての話し合い&gt; ① ABON の方に伝えたいテーマの魅力 ② その理由 の順に発言できる。</p>
B 児 (男) 父日本 母中国	<p>&lt;テーマを決める話し合い&gt; モデル文をもとに、自分で調べた日本文化について、その魅力やよさを発言することができる。 話し始めの言葉につまっても気にせず、話を進めることができる。</p> <p>&lt;構想についての話し合い&gt; これまでの学習内容の PDF を見ながら、ABONG の方にテーマが伝わるような構想を考える。</p>
C 児 (男) 父日本 母フィリピン	<p>&lt;テーマを決める話し合い&gt; モデル文をもとに、自分で調べた日本文化について、その魅力やよさを発言することができる。 自分の考えを自信をもって発言できる。</p> <p>&lt;構想についての話し合い&gt; これまでの学習内容の PDF を見ながら、ABONG の方にテーマが伝わるような構想を考える。</p>

(2) 本時の展開

過程	学習活動・児童の姿	指導と支援 (○教科・◎日本語支援) 支援タイプ【理・表・記・自・情】 ◆評価 (方法)【観点】
導入 5分	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ABONG の方に日本文化を紹介するパンフレットのテーマを決めて、構想を練ろう。</p> </div>	<p>○ 学習のめあてを板書とチャットで提示し、『『鳥獣戯画』を読む』で学習をしたことをいかして、構成や表現の工夫をしてパンフレット作りをするという単元を貫くめあてを意識させる。</p> <p>○ 学習の予定を提示し、時間を意識して話し合いが進められるようにする。</p>
展開 35分	<p>2 グループでテーマを決める。 (1)テーマについてブレイクアートルームで話し合う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生のとき活動した昔遊び。</li> <li>・ 1学期1年生を迎える会でした折り紙。</li> <li>・ フィリピンの人は日本のアニメが</li> </ul>	<p>○ 日本文化についての本や資料をもとにして、テーマを決めるようにする。</p> <p>○ ABONG の方に日本文化をより知ってもらおうという目的意識を明確にして、日本を代表するものやフィリピンの人が興味のあるものを選ぶようにする。</p>

	<p>好き。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お正月や節分などの伝統行事。</li> <li>・社会で学習した狂言や歌舞伎。</li> </ul> <p>(2) 全体で進捗状況を確認する。 (5分)</p> <p>(3) グループでテーマを決定する。 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ABONGの方に日本文化のよさを知ってもらうには、○○をテーマにしよう。</li> <li>・すでに○○について体験したことがあるようだから△△にしよう。</li> <li>・すでに○○について体験したことがあるようだからより詳しく知ってもらうために○○にしよう。</li> </ul> <p>3 グループで構想を練る。</p> <p>(1) 構想についてブレイクアウトルームで話し合う。(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマの歴史を時系列でまとめよう。</li> <li>・『鳥獣戯画』を読むのように魅力を伝えたい。</li> <li>・テーマについてフィリピンと日本を比較してはどうか。</li> </ul>	<p>◎ 必要であれば(4)ウ、エのモデル文を活用して話し合う。 【表】 A児が発言しにくいようであれば、日本語学級で書いたことをもとにするようにチャットで促す。 B児C児は、モデル文を意識できるようにチャットでモデル文を提示する。</p> <p>○ 同じテーマを選んだときは、ABONGの方により多くの日本文化のよさを知ってもらうためには、どのような工夫をすればよいのか考えるようにする。</p> <p>○ テーマを決定する際には、理由を明確にし、自分たちの思いがABONGの方に伝わるようなパンフレットにしようとする意欲を高める。</p> <p>○ 話し合いでは、既習事項の「話すこと・聞くこと」の学習をいかすようにする。</p> <p>○ 話し合いが停滞したときは『鳥獣戯画』を読む』での学びをいかしたり、MJSフェスティバルで取り組んだフィリピンと日本の比較をしたりしてもよいことを助言する。</p> <p>◎ 「構想を練る」とは、パンフレットをどのような内容にするかを考えることであることを伝え、これまでの学習活動の足跡を板書で想起させる。 【記】 A児は自分の考えをもつことができるので、自信をもって発言するようチャットで励ます。 B児C児については、メールでこれまでの学習活動内容の板書を送り、それをすぐに開くことができるようにして、自分の考えをもつための手助けとする。</p> <p>○ 今後の調べ学習を的確なめあての下に行うために、できる限り具体化させたい。</p> <p>◆伝えたいことを明確にして、テーマを決め構想を練ることができる。(観察・記述) 【思B】</p>
<p>終末5分</p>	<p>4 グループごとにテーマと構想を発表し、本時の活動を振り返る。</p>	<p>○ 自分たちのグループと比較しながら聞き、単元を貫くめあては同じであるものの、多様な考え方のもとテーマや構想を決定したことを実感させたい。</p>

## <教科指導>

### 【成果】

アボンの方々に日本文化を伝えるという目的を明確にして話し合うことができた。また、現在も受け継がれている文化には魅力があり、それを発信するという意図も理解できていた。さらに、パフォーマンスを加えることで、調べ学習に広がりや深まりが出た。以上のことから、本時の学習のめあてである「伝えたいことを明確にして、グループで日本文化を発信するパンフレットのテーマを決め、構想を練ることができる」は、達成できた。

※発表内容は、日本食（和菓子を含む）、遊び、建物、道（書道、剣道、華道、茶道等）の4つとなった。

### 【課題】

本時のめあてのみならず、児童がもつ課題を明確にする必要がある。前半の「何をテーマにすればアボンの方に日本文化の魅力が伝わるか」後半の「どんな内容にすればテーマが伝わるか」を指導案に記載し、指導者と授業を参観する教員と共有した方が、事後研が深まる。

## <日本語指導>

### 【成果】

事前に過去6年生が作ったパンフレットを提示したり、日本語学級で先行学習として、モデル文を活用した文章づくりをしたり、単元の足跡を振り返ったりすることで、授業内容を理解し、目的意識をもつことができた。また、プライベートチャットを使って対象児童に話型を送ることで、児童がより発言しやすくなった。さらに進んで発言がしにくいC児については、日本語学級のときにブレイクアウトルームでの司会または記録係の打診を行った。記録係を引き受け、全体での共有場面で決まったことを発言したことが自信になった。

指導案に個人の日本語学級での様子や在籍学級での様子、そして、本時の目標を記載したことで、指導の目的を明確にして授業を行うことができた。

### 【課題】

普段から集中力に課題のあるB児は、ブレイクアウトルームで自分の考えを言った後は、仲間の呼びかけに反応せず、視線が違うところを見ていた。話合いが終わってもそのままだった。自分の考えは話せても、仲間の考えを受け止めることが難しい。話し合いにおける言葉のキャッチボールができるように指導をしていく必要がある。